

# クメール語を母語とする日本語学習者における 日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —非人為的事態の場合—

杉 村 泰

キーワード：日本語教育、クメール語母語話者、非人為的事態、自他動詞、受身

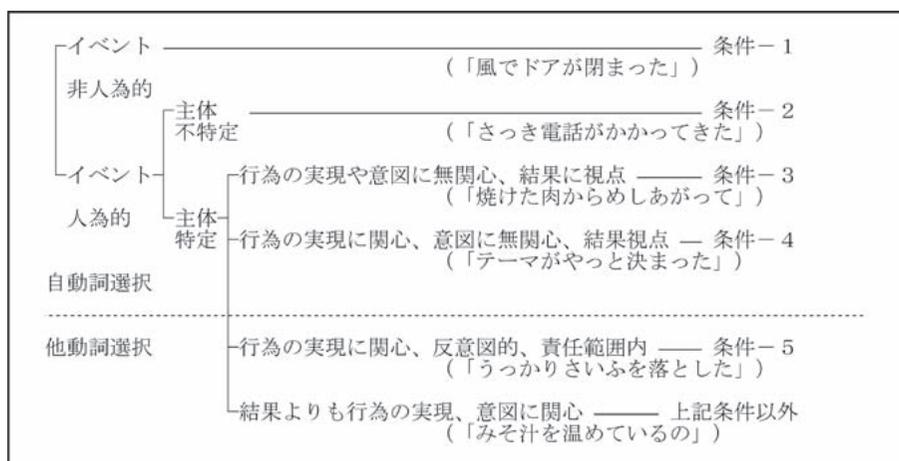
## 1. はじめに

本研究はクメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択意識について論じたものである。杉村（2013a:41）でも論じたように、日本語学習者にとって有対動詞（相対動詞）の自動詞・他動詞・他動詞の受身形の選択は、習得困難な項目の一つである。これは日本語において、自然力による事態なら自動詞、人為的事態なら他動詞、被動的事態なら受身を使うという単純な基準では捉えられないためである。杉村（2013a-d, 2014a-e, 2015a-b）では、日本語母語話者（以下「日本人」と呼ぶ）と中国語話者、韓国語話者、中朝バイリンガル、ウズベク語話者の違いについて論じてきた。これに引き続き、本稿ではクメール語を母語とする日本語学習者（以下「カンボジア人日本語学習者」と呼ぶ）の自動詞・他動詞・受身の選択傾向について論じる。このうち本稿では例（1）～例（3）のように事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」の場合について考察する<sup>1)</sup>。

- (1) 電池が切れて時計が止まった。
- (2) 風でドアがバタンと開いた。
- (3) 火災で家が焼けた。

## 2. 先行研究

日本語学習者にとって有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択が困難であることは、守屋（1994）、小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）など多くの先行研究で指摘されている。このうち、守屋（1994）は日本語の自動詞と他動詞の選択基準には図 A のような条件が関わるとして、条件 2～4 の場合には人為的なイベントであっても自動詞が選択されると述べている。



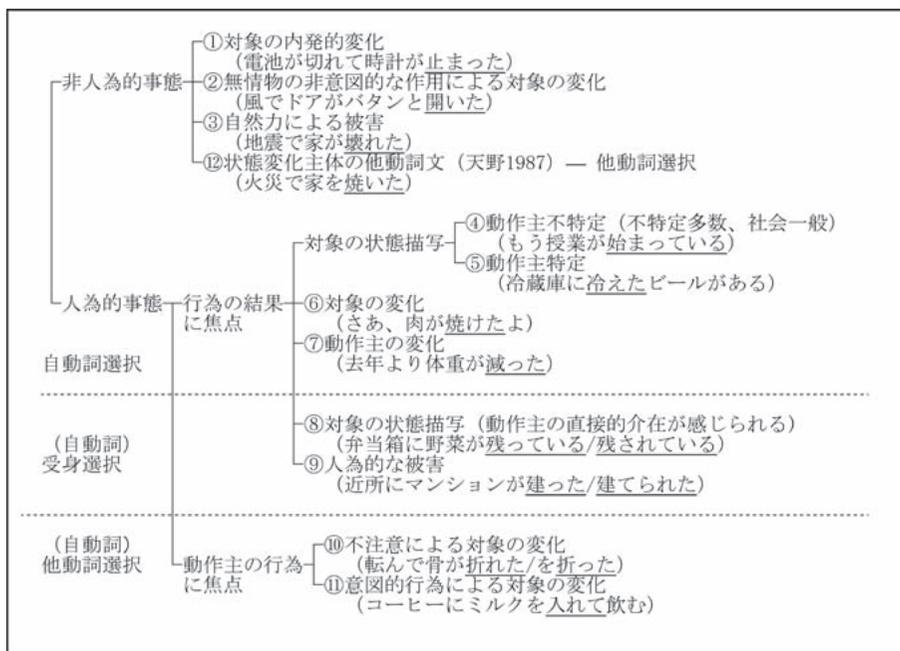
図A 守屋 (1994) の自他動詞の選択条件

そのうえで、守屋 (1994) は中級前半から中頃程度の学習者 (中国語系 60 名、韓国語系 49 名、英語系 21 名) を対象に、例 (4)、例 (5) のようなアンケートを 23 問実施した。その結果、「動詞の自他の選択の難しさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにある」(p.163) として、図 1 の条件のうち「1 から 4 へと次第に習得が難しくなっていく」(p.163) と指摘している。

- (4) ドア [を / が] 風でバタンと (閉めた / 閉まった)。(守屋 1994 の例①)  
 (5) (焼肉店で)「さあ、(焼いた / 焼けた) 肉から、順番に召し上がって下さい」(守屋 1994 の例⑩)

守屋 (1994) は、日本語の自他選択には①人為的行為か否か、②動作主が特定的か否か、③話し手の関心が行為にあるのか結果にあるのかが関わることを示し、学習者は①②③の順にその処理が難しくなることを指摘している。ただし、②の動作主の特定・不特定に関しては分類基準が恣意的であるため、本研究では動作主が特定の個人または複数の人物の場合は「特定」、不特定多数や社会一般の場合は「不特定」と考えることにする (したがって図 A の「電話がかかってきた」の例は本研究では「主体特定」となる)。

これらの先行研究を受け<sup>2)</sup>、杉村 (2013a-d, 2014a-e, 2015a-b) では、守屋 (1994) の事態の分類を図 B のように修正し、調査対象に受身を加えて、日本人と中国語話者、韓国語話者、中朝バイリンガル、ウズベク語話者の自動詞・他動詞・受身の選択意識の違いを比較した。



図B 本研究における事態の分類と日本語母語話者の選択傾向

その結果、日本人は自然現象であればたいいの場合に自動詞を選択するのに対し、中国人日本語学習者は「電池が切れて時計が止まった」のように対象の内発的变化を表す場合には自動詞の選択率が高いものの、風力など外力の影響を受ける場合には他動詞や受身の選択率が上がることを指摘している。

本研究ではこの杉村（2013a-d, 2014a-e, 2015a-b）の研究を受け、カンボジア人日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択意識の違いを明らかにする。

### 3. 調査の概要

本研究ではアンケートによる自動詞・他動詞・受身の選択テストを利用して分析を行う。アンケートは先の図Bに示した12の事態にそって合計60問作成した。各問題は例(6)のように被験者に格助詞「が/を」と「自動詞/他動詞/受身」の組み合わせのうち最も適当だと思うものを一つ選択させるという形式である。

- (6) 電池が切れて時計（が/を）（止まった/止めた/止められた）。

このうち、本稿では事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」（図Bの

事態①②③)を中心に考察する。それに加え「人為的事態」の典型例である「意図的行為による対象の変化」(図Bの事態①)についても比較の対象として取り上げる。以下、本研究の被験者と調査の時期・場所について記しておく。カンボジア人日本語学習者は上級のN1合格レベルの被験者が得られなかったため、N2～N4合格レベルを被験者とする。

・日本語母語話者

名古屋大学学部生 114名 (2012年5月8～10日に名古屋大学にて実施)

・クメール語を母語とする日本語学習者 (カンボジア人日本語学習者)

日本語能力試験 N2合格レベル: 8名、同 N3: 13名、同 N4: 12名

(王立プノンペン大学外国語学部日本語学科の学生 (N2: 8名、N3: 6名、N4: 4名、2014年11月3日に王立プノンペン大学外国語学部日本語学科にて実施)、王立法経大学名古屋大学日本法教育研究センターの学生 (N3: 8名、N4: 8名、2014年11月4日に王立法経大学名古屋大学日本法教育研究センターにて実施))

以上のアンケート調査をもとに自動詞・他動詞・受身およびねじれ(「を+自動詞」または「が+他動詞」)の選択率を集計した。このうち、本稿で考察の対象とする19の表現をまとめると表1のようになる。表中の選択率は小数点以下第二位を四捨五入して示してあるため、自動詞・他動詞・受身・ねじれの合計がぴったり100%にならないものもある。本稿では日本語の「が+受身」と「を+受身」の区別については立ち入って議論しないため、両者を合わせて「受身」とする。同様に、格助詞と自他動詞のねじれについても議論の対象としないため合わせて「ねじれ」とする。また、表中の「N2～N4」はカンボジア人日本語学習者の日本語能力試験の合格レベルを表す。

本稿では「ねじれ」については考慮しないことにするため、ここからさらに「ねじれ」の回答を除外して、「が+自動詞」「を+他動詞」「が/を+受身」の合計が100%になるように計算し直して、自動詞・他動詞・受身の選択傾向を比較することにする。

表1 自動詞・他動詞・受身の選択テストの結果 (数字は選択率%)

	被験者	自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事態① (内発的変化)	1. 電池が切れて時計 (が/を) (止まった/止めた/止められた)。				
	N4	25.0	16.7	16.7	41.7
	N3	71.4	14.3	14.3	0.0
	N2	75.0	0.0	12.5	12.5
	日本人	100.0	0.0	0.0	0.0

クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

事態① (内発的変化)	2. 髪 (が / を) (伸びた / 伸ばした / 伸ばされた) から美容院でカットする。				
	N4	33.3	25.0	16.7	25.0
	N3	50.0	21.4	0.0	28.6
	N2	75.0	25.0	0.0	0.0
	日本人	98.2	0.9	0.0	0.9
	3. コンクリートが腐食して橋 (が / を) (落ちた / 落とした / 落とされた)。				
	N4	33.3	50.0	8.3	8.3
	N3	35.7	21.4	14.3	28.6
	N2	62.5	25.0	12.5	0.0
	日本人	100.0	0.0	0.0	0.0
	4. 老朽化して家の外壁 (が / を) (割れた / 割った / 割られた)。				
	N4	33.3	25.0	25.0	16.7
	N3	35.7	21.4	0.0	42.9
N2	37.5	25.0	25.0	12.5	
日本人	95.6	1.8	2.6	0.0	
事態② (無常物の作用)	5. ポケットの中のチョコレート (が / を) 体温で (溶けた / 溶かした / 溶かされた)。				
	N4	16.7	8.3	41.7	33.3
	N3	64.3	7.1	21.4	7.1
	N2	62.5	0.0	25.0	12.5
	日本人	72.8	0.9	26.3	0.0
	6. 太陽の光でコップの水 (が / を) 自然に (温まった / 温めた / 温められた)。				
	N4	16.7	8.3	41.7	33.3
	N3	64.3	7.1	21.4	7.1
	N2	62.5	0.0	25.0	12.5
	日本人	72.8	0.9	26.3	0.0
	7. 風でドア (が / を) バタンと (開いた / 開けた / 開けられた)。				
	N4	41.7	8.3	41.7	8.3
	N3	64.3	0.0	35.7	0.0
	N2	75.0	0.0	12.5	12.5
	日本人	91.2	0.0	8.8	0.0
	8. 風が強くて蠟燭の火 (が / を) (消えた / 消した / 消された)。				
	N4	0.0	25.0	16.7	58.3
	N3	50.0	7.1	14.3	28.6
N2	100.0	0.0	0.0	0.0	
日本人	97.4	0.9	0.9	0.9	
9. 突風が吹いて人 (が / を) 屋根から (落ちた / 落とした / 落とされた)。					
N4	25.0	16.7	25.0	33.3	
N3	42.9	14.3	14.3	28.6	
N2	62.5	0.0	37.5	0.0	
日本人	83.3	9.6	7.0	0.0	

事態② (無常物の作用)	10. 台風でリンゴの実(が/を)全部(落ちた/落とした/落とされた)。				
	N4	33.3	0.0	41.7	25.0
	N3	21.4	0.0	50.0	28.6
	N2	62.5	0.0	37.5	0.0
	日本人	94.7	0.0	5.3	0.0
	11. 強風で窓ガラス(が/を)(割れた/割った/割られた)。				
	N4	41.7	0.0	41.7	16.7
	N3	35.7	7.1	42.9	14.3
	N2	25.0	12.5	62.5	0.0
	日本人	93.0	0.9	6.1	0.0
	12. 家に帰ったら、窓ガラス(が/を)(割れて/割って/割られて)いた。				
	N4	75.0	0.0	25.0	0.0
	N3	57.1	0.0	14.3	28.6
N2	75.0	0.0	25.0	0.0	
日本人	47.4	0.0	52.6	0.0	
事態③ (自然力による被害)	13. 火災で家(が/を)(焼けた/焼いた/焼かれた)。				
	N4	25.0	8.3	50.0	16.7
	N3	0.0	7.1	42.9	50.0
	N2	50.0	0.0	37.5	12.5
	日本人	90.4	0.0	6.1	3.5
	14. 奈良の大仏(が/を)火災で何度も(焼けて/焼いて/焼かれて)いる。				
	N4	16.7	8.3	41.7	33.3
	N3	21.4	0.0	57.1	21.4
	N2	37.5	0.0	50.0	12.5
	日本人	66.7	2.6	29.8	0.9
	15. 地震で家(が/を)(壊れた/壊した/壊された)。				
	N4	33.3	16.7	50.0	0.0
	N3	28.6	0.0	71.4	0.0
N2	37.5	0.0	62.5	0.0	
日本人	91.2	0.0	8.8	0.0	
事態① (意図的行為)	16. 電子レンジで冷えたスープ(が/を)(温まった/温めた/温められた)。				
	N4	16.7	25.0	33.3	25.0
	N3	21.4	64.3	14.3	0.0
	N2	0.0	87.5	0.0	12.5
	日本人	5.3	90.4	4.4	0.0
	17. おや、髪(が/を)(切れた/切った/切られた)んだ。				
	N4	25.0	33.3	8.3	33.3
	N3	28.6	50.0	14.3	7.1
	N2	0.0	75.0	12.5	12.5
日本人	1.8	98.2	0.0	0.0	

事態① (意図的行為)	18. コーヒーにミルク (が / を) (入って / 入れて / 入れられて) 飲む。				
	N4	8.3	50.0	0.0	41.7
	N3	0.0	92.9	0.0	7.1
	N2	0.0	100.0	0.0	0.0
	日本人	2.6	95.6	1.8	0.0
	19. 目が悪くなったので、眼鏡 (が / を) (変わった / 変えた / 変えられた)。				
	N4	8.3	33.3	25.0	33.3
	N3	0.0	78.6	0.0	21.4
	N2	12.5	75.0	0.0	12.5
	日本人	1.8	98.2	0.0	0.0

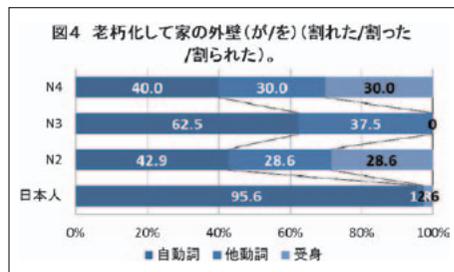
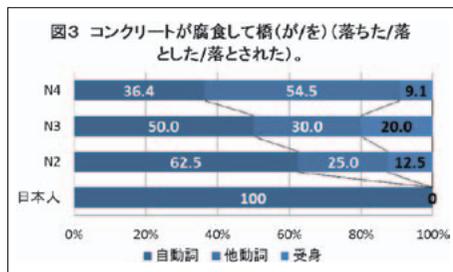
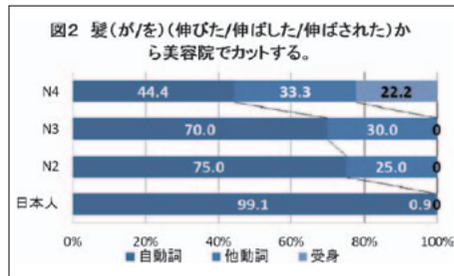
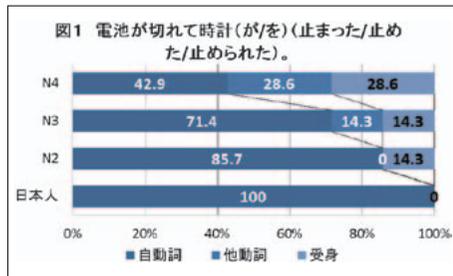
#### 4. 事態別に見る自動詞・他動詞・受身の選択傾向

##### 4.1 対象の内発的变化を表す場合 (事態①)

本節では対象の内発的变化を表す場合 (事態①) の自動詞・他動詞・受身の選択傾向について論じる。内発的变化とは「電池が切れて時計が止まる」のように外力によらず時間的経過による対象の自発的变化を表すもののことである。この場合、図1～図4のように、日本人はほぼ100%自動詞を選択する。

一方、カンボジア人日本語学習者も、「電池切れによる時計の停止」、「成長による髪の毛の伸び」、「コンクリートの腐食による橋の落下」の場合は、N4レベルでは自動詞の選択率が低いものの、N3、N2と習得レベルが上がるにつれて自動詞の選択率が上がっていく。しかし、「老朽化による外壁の割れ」の場合はN2になっても自動詞の選択率が42.9%と低いままである。

これに関しては、「電池切れによる時計の停止」、「成長による髪の毛の伸び」、「コンクリートの腐食による橋の落下」は対応するクメール語でも自動詞表現の選択率が80%以上であったのに対し、「老朽化による外壁の割れ」はクメール語では自動詞表現の選択率が44.1%、受身表現の選択率が47.5%であったことと関係があると思われる<sup>3)</sup>。「橋の老朽化」は、日本語では単に内発的变化として認識されるのに対し、クメール語では橋の落下を引き起こす外力としても認識されると考えられる。しかし、クメール語からの母語転移については今後の課題とする。



#### 4.2 無情物の非意図的な作用を表す場合 (事態②)

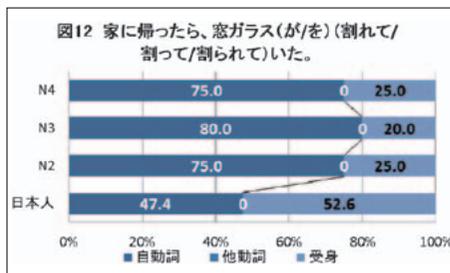
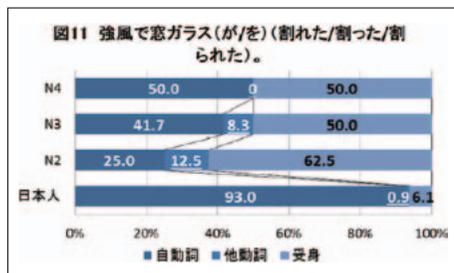
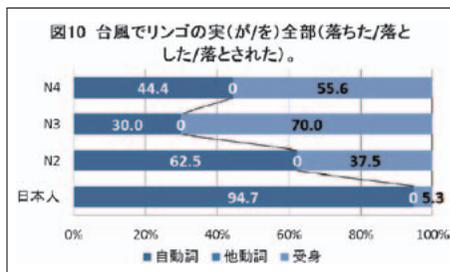
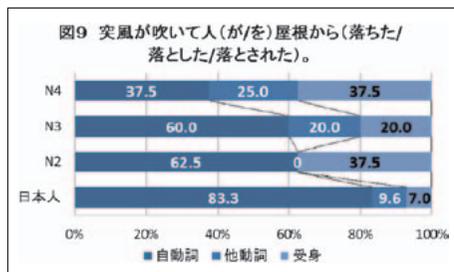
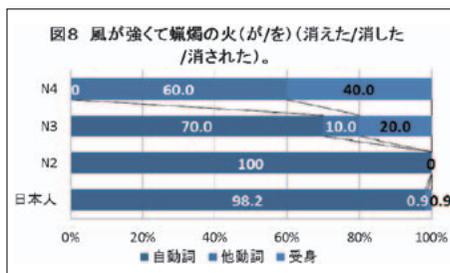
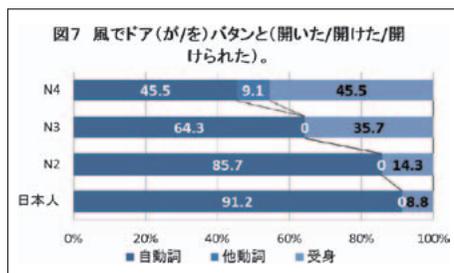
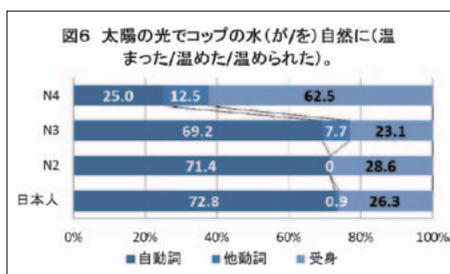
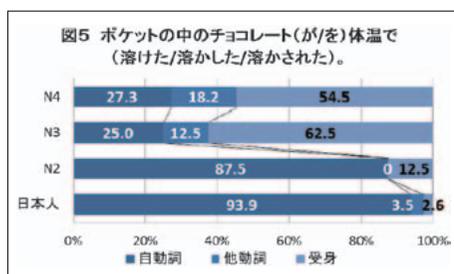
本節では無情物の非意図的な作用を表す場合 (事態②) について論じる。無情物の非意図的な作用とは「風でドアが開く」のように風や光や熱などの外的な自然作用による対象の変化を表すもののことである。この場合も、図5～図11のように、日本人は自動詞の選択率が72.8～98.2%以上と高い。

一方、カンボジア人日本語学習者は、自動詞の選択率が高い場合も低い場合もある。まず、図5の「体温によるチョコレートの溶解」の場合、N4、N3レベルでは受身の選択率が高いが、N2レベルになると自動詞の選択率が90%近くになり、日本人と同じような感覚で選択できるようになる。図6の「太陽光による水温の上昇」の場合も、N4レベルでは自動詞の選択率が25.0%と低いが、N3、N2レベルになると自動詞の選択率が約70%にまで上がり、日本人と同じような感覚で選択できるようになる。ところで、「太陽光による水温の上昇」の場合、日本人も26.3%の人が受身を選択している。これは日本語の受身文は被害の意味を表すだけでなく、論文などの科学的な記述において客観的な状態変化を表す表現である。この場合、カンボジア人日本語学習者もN2レベルでは受身の選択率が28.6%となっており、日本人に近い感覚で受身が選択されていることが分かる。

また、図7～図11は同じ「風」による対象の変化を表す場合である。この場合、日本人はいずれも自動詞の選択率が80%以上と高くなるのに対し、カンボジア人日本語学習者は図7の「ドアの開閉」や図8の「蠟燭の火の消滅」の場合はN4レベルからN2レベルに上がると日本人のように自動詞の選択率が80%以上と高くなる一方で、図9の「人

クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択についての「落下」や図10の「リンゴの落下」の場合はN2になっても受身の選択率が37.5%もあり、図11の「窓ガラスの割れ」の場合はN4レベルよりもN2レベルの方が受身の選択率が高くなっている。このことから、カンボジア人日本語学習者は同じ「風」による対象の変化を表す場合でも、被害の意味が弱いと自動詞が選択されるが、被害の意味が強くなると受身が選択されやすいと考えられる。

一方、図12を見ると、日本人は自動詞と他動詞の選択率がおおよそ半々になっているの



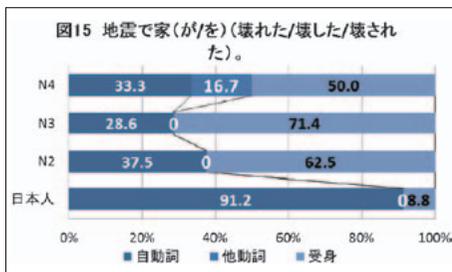
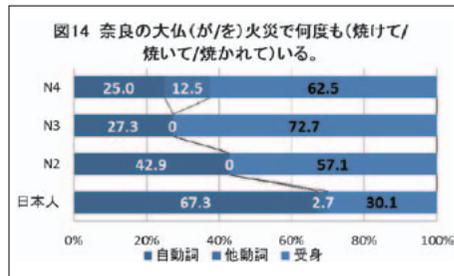
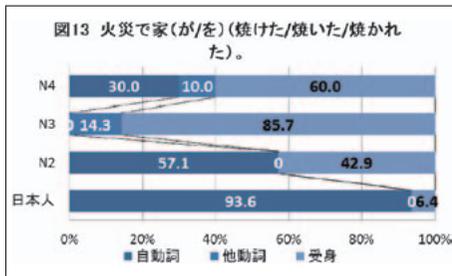
に対し、カンボジア人日本語学習者はN4レベルからN2レベルまで自動詞の選択率が75～80%と高いという違いが見られる。日本人の場合、図11のように自然現象が原因であることが明白な場合は自動詞を選択しやすいが、図12のように原因が自然によるものか人為によるものか不明の場合は、どちらも同じぐらい選択される。これに対し、カンボジア人日本語学習者は「強風」という外力が明示されていると受身の選択率が高くなり、それがない場合は動作主を想定しにくいいため受身の選択率が低くなると思われる。

#### 4.3 自然力による被害を表す場合（事態③）

本節では自然力による被害を表す場合（事態③）について論じる。これは事態②に被害の意味が伴ったものである。まず、対象の焼失を表す図12と図13を比較する。日本人の場合、図13の「火災による家屋の焼失」では自然現象であることに反応して自動詞の選択率が93.6%であるのに対し、図14の「度重なる火災による大仏の焼失」ように被害の意味が強くなると自動詞の選択率が67.3%に下がり、受身の選択率が30.1%に上がっている。一方、カンボジア人日本語学習者はどちらの場合も日本人に比べて受身の割合が大きくなっている。ただし、N4レベルからN2レベルになると自動詞の選択率が上がるため、習得レベルが上がると多少は日本人の感覚に近づくことが分かる。

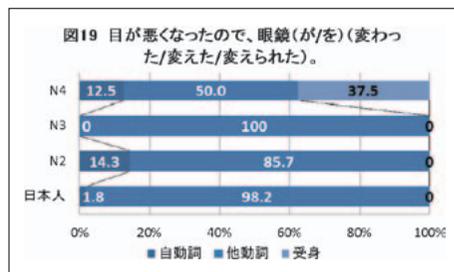
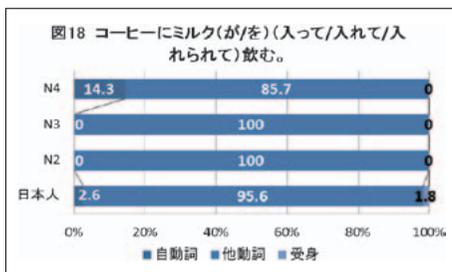
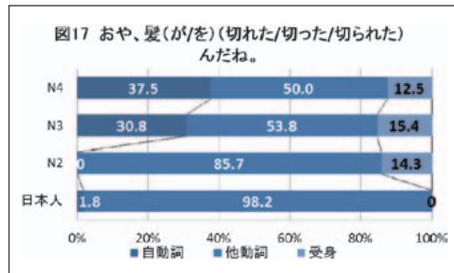
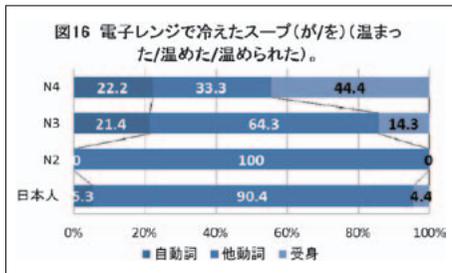
次に、図15の「地震による家屋の倒壊」を見ると、日本人の場合は図13の「火災による家屋の焼失」と同様に自動詞の選択率が91.2%と高くなっている。一方、カンボジア人日本語学習者はN4レベルからN2レベルになっても自動詞の選択率が35%前後とあまり変わらず、受身の選択率が高くなる。このことから、日本人は自然現象であることに反応して自動詞を選択する傾向があるのに対し、カンボジア人日本語学習者は被害の意味に反応して受身を選択する傾向があることを示していると考えられる。この場合、クメール語でも図12の場面では自動詞の選択率が89.8%であったのに対し、図15の場面では自動詞表現が27.1%、他動詞表現が40.7%、受身表現が32.2%であったことと関係があるのかもしれない<sup>4)</sup>。

クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について



#### 4.4 動作主の意図的な行為を表す場合 (事態①)

本節では動作主の意図的な行為を表す場合 (事態①) について論じる。動作主の意図的な行為とは「スープを温める」のように動作主が何らかの目的のために当該の行為を行うことを表すものである。この場合、図16～図19のように、日本人でもカンボジア人日本語学習者も他動詞の選択率が高くなる。この点上の事態①～③とは異なる。N4レベルやN3レベルでは判断に揺れがあるものも、N2レベルになると他動詞が選択できるようになる。



## 5. まとめ

以上、本研究ではクメール語を母語とする日本語学習者（カンボジア人日本語学習者）における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択意識のうち、主に非人為的事態の場合について論じた。以下、事態①②③④の概要を整理しておく。

・対象の内発的变化を表す場合（事態①）

日本人もカンボジア人日本語学習者も全体的に自動詞の選択率が高い。

・無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）

日本人は自動詞の選択率が70%以上と高い。一方、カンボジア人日本語学習者は「体温によるチョコレートの溶解」や「太陽光による水温の上昇」の場合にはN2レベルで日本人と同じように自動詞の選択率が高くなる。また、「風」による対象の変化を表す場合、「ドアの開閉」、「蝋燭の火の消滅」のように被害の意味が弱いと自動詞が選択されやすくなり、「人の落下」、「リンゴの落下」、「窓ガラスの割れ」のように被害の意味が強くなると受身が選択されやすくなる。

・自然力による被害を表す場合（事態③）

火災による焼失や地震による倒壊の場合、日本人は自然作用であることに反応して自動詞の選択率が高くなるのに対し、カンボジア人日本語学習者は被害の意味に反応して受身の選択率が高くなる。ただし、日本人も「度重なる火災」のように被害の意味が強くなると受身の選択率が上昇する。

・動作主の意図的な行為を表す場合（事態④）

日本人もカンボジア人日本語学習者も全体的に他動詞の選択率が高い。

付記：本稿は平成 25-27 年度日本学術振興会科学研究費基金（挑戦的萌芽研究）（課題番号 25580111）による研究成果の一部である。

## 注

- 1) 「人為的事態」については次号『言語文化論集』37-2（2016年3月発行予定）で論じる。また、人為的事態のうち「動作主の不注意による対象の変化を表す場合」については『ことばの科学』29（名古屋大学言語文化研究会編、2015年12月発行予定）で論じる。
- 2) 小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）については杉村（2013b）で論じたので、ここでは省略する。守屋（1994）についても杉村（2013b）で論じたが、本研究の事態の分類のものにな

- クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について
- るものであるため、再度取り上げることにする。
- 3) 対応するクメール語の調査には、2014年11月3～4日に王立プノンペン大学外国語学部日本語学科と王立法経大学名古屋大学日本法教育研究センターで合計59人のクメール語母語話者に実施した。
  - 4) クメール語において火災による消失は自然現象と捉えられやすいが、地震による倒壊は外力による作用と捉えられやすいという認知的な違いが、日本語の習得にも影響している可能性が考えられる。

## 参考文献

- 天野みどり (1987) 「状態変化主体の他動詞文」『国語学』第151集, 国語学会, pp.110-97 (左1-14)
- 小林典子 (1996) 「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況」『文藝言語研究・言語篇』第29巻, 筑波大学文芸・言語学系, pp.41-56
- 杉村 泰 (2013a) 「対照研究から見た日本語教育文法—自動詞・他動詞・受身の選択—」『日本語学』2013年6月号・第32巻第7号 (通巻410号), 明治書院, pp.40-48
- 杉村 泰 (2013b) 「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について—一人為的事態の場合—」『日本語／日本語教育研究』[4] 2013, 日本語／日本語教育研究会・ココ出版, pp.21-38
- 杉村 泰 (2013c) 「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択—被害や迷惑の意味を表す場合—」『漢日語言対比研究論叢』第4輯, 漢日対比語言学研究 (協作) 会編・北京大学出版社, pp.275-286
- 杉村 泰 (2013d) 「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第26号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.153-170
- 杉村 泰 (2014a) 「中国語母語話者における自動詞、他動詞、受身の選択—一人為性に対する認識の違い—」『日語教育と日本学研究—大学日語教育研究国際研討会論文集 (2013)—』, 華東理工大学出版社, pp.6-11
- 杉村 泰 (2014b) 「延辺大学生における日本語の自・他・受身の選択—中国語母語話者と中朝バイリンガルの比較—」『中朝韓日文化比較研究叢書—日本語文化研究』第三輯 (上), 延辺大学出版社, pp.548-554
- 杉村 泰 (2014c) 「台湾人日本語学習者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について」『銘傳日本語教育』第17期, 銘傳大学教育暨応用語文学院応用日語学系出版, pp.67-91
- 杉村 泰 (2014d) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—一人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第36巻第1号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-45
- 杉村 泰 (2014e) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第28号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.145-156
- 杉村 泰 (2015a) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—一人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』第36巻第2号,

名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.47-62

杉村 泰 (2015b) 「日・中・韓・ウズベク語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択」『東アジア日本語・日本文化研究』第19集 特別号, 東アジア日本語日本文化研究会, pp.1-18

曾ワンティン (2012) 『中国語母語話者における有対他動詞の受身表現と自動詞の使い分けについて』名古屋大学修士学位論文

中村祐理子 (2002) 「中級学習者の受身使用における誤用例の考察」『北海道大学留学生センター紀要』第6号, 北海道大学留学生センター, pp.21-36

守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に」『講座日本語教育』第29分冊, 早稲田大学日本語研究教育センター, pp.151-165